

ネギハモグリバエの 有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：ネギハモグリバエに関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：（開始するに至った問題の本質、目的）

ネギハモグリバエは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、ネギハモグリバエの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

ネギハモグリバエが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

ネギハモグリバエ（学名：*Liriomyza chinensis*（Kato））を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響するネギハモグリバエの特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

ネギハモグリバエは、北海道、本州、四国及び九州に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

ネギハモグリバエは、北海道、本州、四国及び九州に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名	ネギハモグリバエ ^{3)、4)、6)}
学名	<i>Liriomyza chinensis</i> (Kato) ^{3)、4)、6)}
英名	stone leek leafminer ⁴⁾ 、leek leaf miner ⁶⁾
分類	ハエ目 (Diptera) ^{4)、6)} ハモグリバエ科 (Agromyzidae) ^{3)、4)、6)}

分布：(日本) 北海道、本州、四国、九州^{3)、6)}
(世界) 中国、マレーシア^{3)、6)}

寄主植物：ネギ属 (ネギ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ等)^{4)、6)}

形態・生態：成虫の前翅長は 1.75 ～ 2.1 mm、体長は 2 mm 内外。体色は光沢のある黒色で部分的に黄色。幼虫の体長は約 4 mm。体色は白色から乳白色。頭蓋はない。後気門の気門小孔は 8 ～ 10 個。蛹は俵型で体長約 3 mm。体色は褐色。雌成虫は葉の組織内に点々と産卵し、幼虫が葉肉内に潜入して葉の内側から食害する。幼虫は地上に落下して土中で蛹化する。成虫は北日本では 5 月、西日本では 4 月から出現し、年 5 ～ 6 回発生する。蛹態で越冬する。卵・幼虫・蛹の発育零点は 8.9、10.7、11.6 °C。有効積算温度は 48.9、88.9、232.2 日度と算出されている。^{2)、6)}

被害：ネギ属植物で被害が認められる。幼虫の食害により葉に短い線状や不整形の白斑が現れる。発生が多いと、葉全体が白くなり、特に苗で被害が大きくなる。葉ネギ、ニラでは白斑が現れると商品価値が下がる。⁶⁾

ベクター・

系統：植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生の有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。¹⁾

防除法：ネギ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ等においてネギハモグリバエに対する登録農薬がある。⁵⁾

文献：1) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011/10)

Silver Platter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)

2) 岩手県農業研究センター (2002) 研究レポート 184.

3) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編 (1999) 日本産昆虫目録データベース. 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室.

(<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)

4) 日本応用動物昆虫学会 編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会、東京：387pp.

5) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター. 農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famic.go.jp/>)

6) 梅谷献二・岡田利承 編 (2003) 日本農業害虫大事典. 全国農村教育協会、東京：1203pp.